

ヤマブキシヨウマ *Aruncus dioicus* (Walter) Fernard var. *kamtschaticus* (Maxim.) H.Hara

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 12。温帯性の植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

多年生草本。高さ 30～80cm になる。根茎は太く、分枝する。葉は大きく、互生し、2回3出複葉、小葉は卵形、長さ 3～10cm、先端は尾状鋭尖頭、辺縁には欠刻と鋸歯がある。花期は 6～8 月、雌雄異株で、茎の先端の長さ 10～30cm の複総状円錐花序に、多数の白色の小さい花をつける。花弁は 5 個、へら形で、雄花には約 20 個の雄ずい、雌花には直立した 3 心皮がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (小林 52774, 1994-7-23)。

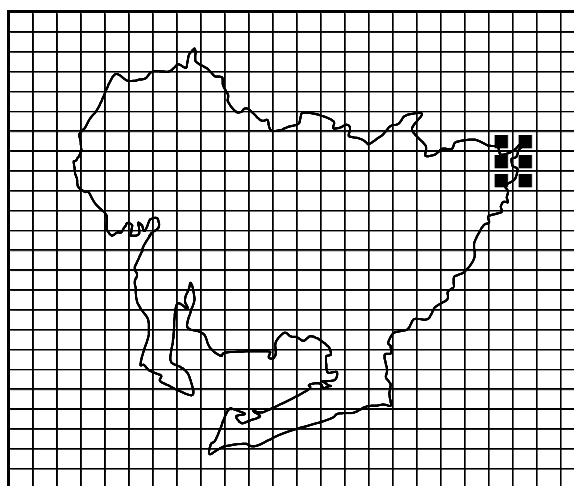
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州の山地に生育する。北日本では普通に見られる植物である。

【世界の分布】

北半球の温帯に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の沢沿いの林縁に生育する。愛知県の生育地は、ヒノキ造林地だという。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

愛知県では小群落があるだけらしく、植物体も本種としては小形である。造林地の手入れ不足により、被陰されて衰退傾向にあるという。自生地周辺ではニホンジカによる食害が著しく、その影響も懸念される。

【保全上の留意点】

生育地の造林地について、間伐などの適切な管理を行うことが必要である。シカの個体数調整も急ぐ必要がある。

【特記事項】

和名は、小葉の形がヤマブキによく似ているからだと言われる。

【関連文献】

保草本II p.121, 平草本II p.174, 平新版3 p.60.